

# 近代人種主義の二つの系譜とその交錯

啓蒙主義とロマン主義

地域連鎖の世界史から人種を考える

人文科学研究所 田辺明生

# 啓蒙主義と人種差別

- ◆ 啓蒙主義とは: 人間性の本質である理性の光を全ての人に広げていこうとする思想運動
- ◆ 人間性の本質は平等なはずなのに、どうして啓蒙主義の発展した国(たとえばアメリカやイギリス)は、また人種主義の発達したことでもあるのか？

# 英國による植民地支配と人種主義



▲⑩イギリス人将校と植民地インドの使用人



▲①インドのイギリス人将校の生活 インドにやってきたイギリス人将校は高級をとり、多くのインド人を雇って、本国ではできない貴族さながらの生活を送った。

③飢餓の  
発生年  
(赤棒が発生年)

米国：奴隸貿易から、  
奴隸解放(1862年)と  
人種分離政策を経て  
公民権運動(1950—  
1960年代)へ



キング牧師：私には夢がある。  
「万人は生まれながらにして平  
等である。これが自明の理であ  
ることをここに保証する」、この  
国家の基本理念を真の意味に  
よって実現する日が来るという  
夢が。

# 啓蒙主義的人種主義

- ◆ 啓蒙主義は、文明化という普遍主義的な使命觀を内包すると同時に、こうした理念が前提とする目的論的歴史(自)集団と、未だ啓蒙が完全に届かざる(あるいは、啓蒙が不可能な)諸集団とを差異づける特殊主義的な権力性を含んでいる。それはいわば「啓蒙の差異化」あるいは「文明的分断化」をもたらすのである。であるからこそ、啓蒙主義のイデオロギーは、歴史上、人種主義や性差別や階級差別を駆逐するのではなく、むしろ諸集団を理性の光からの距離によって分類する新たな差異化・序列化を帰結してきた。
- ◆ ドゥルーズとガタリは「ヨーロッパ的な人種差別は、<白人>の顔からの逸脱の度合いを決定することによって作動するのである」という。(ネグリ p.251)

# 啓蒙主義批判としてのロマン主義

- ◆ 啓蒙主義の科学主義的進歩主義に対して、ロマン主義は、内面性、情動、想像力、神秘性、自然との調和などを重視。
- ◆ ロマン主義における普遍主義的同一化の思想は、啓蒙主義による集団の差異化への批判として生まれたものであり、また啓蒙と理性において社会を分断化する傾向に対し、成り立つとした。それは、自然との一体化を通じた全体的な統合を目指すとした。それは、日本のように別の形の普遍主義をも内包していた。英仏の帝国主義的・人種主義に対する批判の思想的基盤を提供したことでもまた歴史的事実。

# ロマン主義的人種主義

- ◆ ドイツにおけるナチズムと反セム主義の発展にロマン主義が大いに関わることは事実。ロマン主義的人種主義は、「ロマン主義的同一化」あるいは「自然的全体化」を希求するなかで発生するものであり、共同体の有機的統合を邪魔するとされる「不純」要素を憎悪するもの(たとえばナチズムにおけるユダヤ人差別やヒンドゥー原理主義におけるムスリム差別)、また統合的全体における同化的程度において差別を行うものがある(たとえば日本帝国主義による朝鮮人・台湾人差別やヒンドゥー原理主義における低カースト差別)。

# 啓蒙主義的人種主義と ロマン主義的人種主義の交錯

- ◆ 日清・日露戦争後の欧米においては黄禍論がひろがり、日系移民や中国移民に対する排斥運動。こうした動きは脱亜入欧をめざしていた日本にとって大きな打撃。
- ◆ このころから日本で黄種と白種の対抗図式が語られるようになり、その影響が中国の近代化革命運動に及んだ。
- ◆ 1919年のベルサイユ会議で国際連盟規約に人種差別撤廃条項を盛り込む提案が拒否。
- ◆ ⇒日本は自らの国際上の立場を再考。つまり欧米が掲げていた普遍的自由主義の理想が極めてヨーロッパ中心主義的なもので、人種的な差異を超えることができないものであることを日本は痛感。

- ◆ 大正デモクラシーはこのころピークを迎えるのであるが、それは時代の転機でもあり、20年代から日本の歩みは汎アジア主義へと大きく転換し、大東亜共栄圏構想へといたることとなる。
- ◆ 日本が提唱した白人に対抗するための有色人種の連帯主義といふ圖式は、結局日本によるアジアへの帝国主義的進出を正当化する論理になってしまった。しかし、その思想的背景は、帝国主義的な権力闘争における諸勢力の対決圖式のみに還元できるものではない。
- ◆ 『近代の超克』に代表されるような日本の思想界の試みは、ヨーロッパ文明への根本的な批判をしながら、そこには義的普遍主義の不徹底を糾弾しようとすること。それをおいて超える世界觀を提出しようとする。そこにはまた、ドイツにおけるロマン主義思想、インドにおけるタゴールやガンディーの思想などとも共鳴していた。

- ◆ 欧米の人間中心的(実は白人・ブルジョワ・男性中心的)な個人主義的自由主義の限界を指摘し、自然全体を単位とするロマン主義的な共同体的連帯をめざそうとする考え方であった。こうした思想は、日本による人種差別撤廃条項提案や後述するインドの反植民地運動のような、西洋中心的な啓蒙主義的人種主義を批判する動きの重要な基盤の一部となっていたことは特筆に値する。
- ◆ しかしそれは歴史のなかで、特にドイツと日本において、別の形のロマン主義的人種主義を生み出してしまったことも強調される必要がある。
- ◆ 諸種の人種主義を分析するにあたっては、その背後にあらうした諸思想の批判的交錯の過程に注意しなければならないであろう。

# 帝国の経験と人種主義

- ◆ 啓蒙主義的人種差別およびロマン主義的人種差別の二つの系譜の誕生とその交錯は、近代世界における植民地経験の歴史と深く関わっている。帝国の経験は植民者および被植民者に共有されており、その経験のなかから、啓蒙主義とロマン主義そしてそれらから派生する諸人種主義は生成した。
- ◆ つまり世界的な帝国経験のなかで近代および近代人種主義は作られたのである。それらは、自生的に西洋で生まれ、周辺に拡大していったのではない。近代人種概念も西洋によって独自に発明されたというよりも、共有された帝国経験の中で生まれたのである。

# WWII後の独立国



# ヨーロッパとインドの両義的な関係

- ◆ ヨーロッパの植民地経験は一枚岩的なものではなく、「文明的差異化」と同時に「自然的全体化」の契機も存在した。インドは、啓蒙主義の観点からは劣等に位置づけられたが、ロマン主義の観点からはヨーロッパに失われた高貴な古代文明を保つ国として憧憬の対象ともなった。
- ◆ オリエンタリストによるインド文明の研究。インドの古典芸術は、ヨーロッパ思想に多大な影響を与えた。サンスクリット文献の「発見」は、18世紀末から19世紀初頭の独仏を中心として「オリエンタル・ルネサンス」をまきおこした。インド哲学は、近代の合理主義や主知主義の限界を超えるための思想としてヨーロッパ知識人に大いに歓迎され、ロマン主義や主意主義や生の哲学の発展に貢献した。
- ◆ たとえばウパニシャッド哲学はショーペンハウアーに「わが生の慰め、わが死の慰め」と絶賛された。

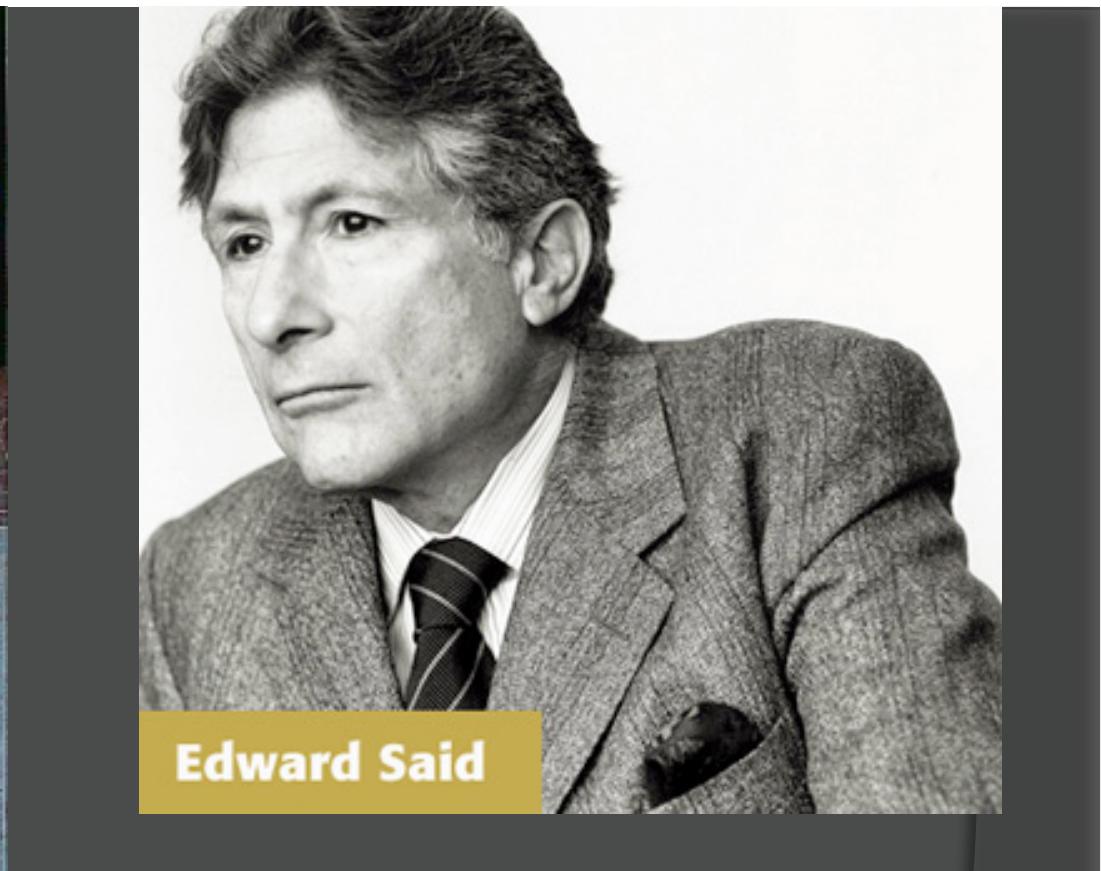
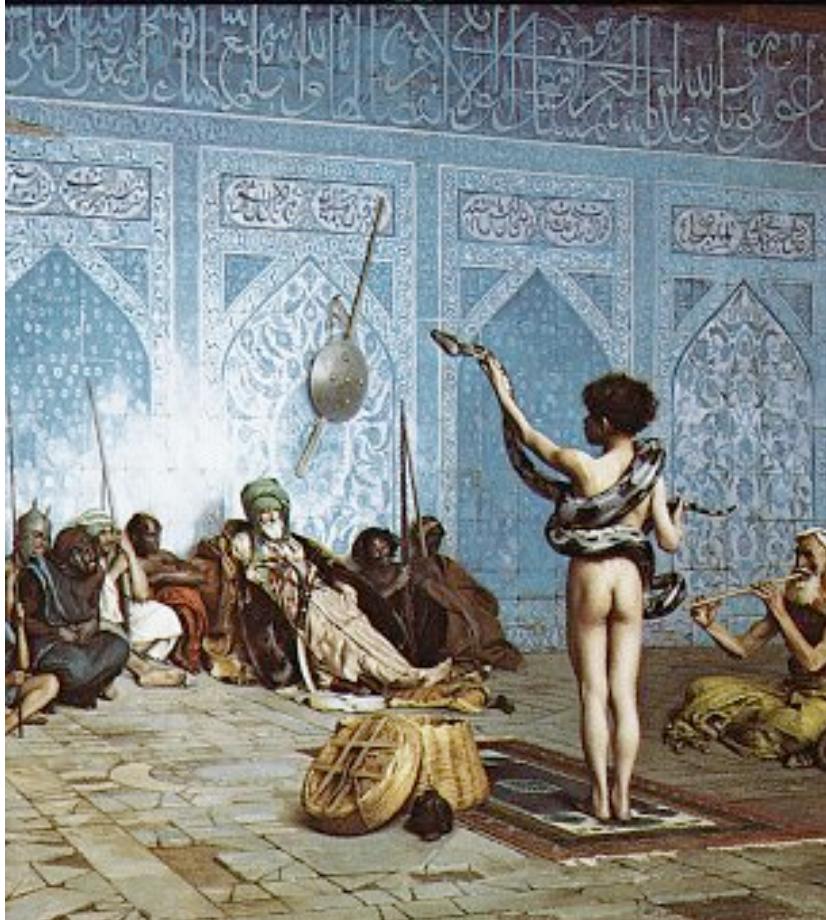
# 植民地主義と知

- ◆ サイードの『オリエンタリズム』(Said 1978)以来、オリエンタリストたちは、西洋による東洋支配の片棒を担いだ帝国支配の手先として糾弾されてきた。
- ◆ しかし思想的に見たとき、イギリスの植民地支配を正当化する役割を演じたのはむしろジェームズ・ミルなどの啓蒙主義、自由主義、功利主義の系譜に属するものたちであり、オリエンタリストたちは反対にそうした思想に批判的なロマン主義や生の哲学の系譜とつながっていた。
- ◆ むろんサイードが指摘するようにオリエンタリズム（東洋学）が東洋をロマン化してそれに対する欲望と憧憬を作り出したというのは事実である。ただそのうえで東洋に対する支配とその消費を正当化したのは、啓蒙主義の系譜に属する学問であった。

"Intellectual history on [a] high order...and very exciting."  
—John Leonard, THE NEW YORK TIMES

E D W A R D W . S A I D

# Orientalism



Edward Said



# 帝国主義批判のオリエンタリズム

- ◆ ウィリアム・ジョーンズは、印歐語族確立の礎をつくった。
- ◆ そしてこの印歐語族の話し手として「アーリアン」概念を流布したのが、マックス・ミュラー。
- ◆ 『イギリスの兵士と赤銅色のベンガル人の血管の中には同じ血が流れている』。ミュラーはロマン主義的同一化の思想によって啓蒙主義的差異化による帝国主義的自民族中心性を批判しようとした。

# 英国内での動き

- ◆ 英国の帝国主義が依拠する啓蒙主義的差異化は、国内的には国教会・白人・ブルジョワ・男性中心主義としてあらわれた。
- ◆ 19世紀後半には、労働者や女性の地位向上のために社会主義やフェミニズムの運動が英国でも広がりつつあった。
- ◆ これらの運動は、啓蒙主義的普遍主義の徹底を主張する立場であるといえようが、こうした動きと、ロマン主義的同一化の立場からの帝国主義批判はしばしば接合したことが注目される。

# アニー・ベサント(1847-1933)



- ？中産階級のイギリス人で、あつたが、キリスト教(国教)会)信仰を捨てて離婚。フェミニズム、社会主義、世俗主義の運動に参加する。
- ？その後、神智学協会(一種のオカルト運動)に入会し、渡印した。インドでは反植民地運動に傾倒し、1917年にはインド国民会議の長に選ばれるにいたつた。

# 神智学協会の目的



人種、信条、性別、階級、  
皮膚の色の相違にとらわ  
れることなく、人類の普遍  
的同胞愛の中核となるこ  
と。

比較宗教、比較哲学、比較  
科学の研究を促進するこ  
と。

未だ解明されない自然の  
法則と人間に潜在する能  
力を調査研究すること。

# 神秘主義と反植民地主義の結びつき



- ◆ ベサントにおいて反権威主義と神智学と民族運動はいかに結びついたのであろうか。
- ◆ 神智学協会は、インドとヨーロッパに共通する「アーリア」の靈的伝統を賞揚したが、それは、植民地主義的人種主義や男性・ブルジョア・教会の権威主義を批判する普遍主義的思想として働いたのであった。

◆ 聖者ヴィヴェーカーナンダ(1863-1902)の弟子で、民族運動に献身したアイルランド出身のシスター・ニヴェーディタ(1867-1911)。



# ドイツ・ナチズムのユダヤ人差別

- ◆ 他方、1890年代以降のドイツにおいては、アーリアン概念は反セム主義とつながる。
- ◆ ドイツにおいて、アーリア的文化の伝統は、自然とのロマン主義的同一化という見果てぬ夢と重なりあわされる。そして、セム的文化が人間を内在的自然から切り離して超越的存在と結び付けようとするのにたいして、自然との同一化を通じた全体的統合の夢の実現を邪魔するものとして憎悪をいだくにいたる。
- ◆ こうして反セム主義は、ナチスにおいて極端な人種主義に帰結したのであった。

# 「アーリア」概念の多様な政治的意味合い

- ◆ 「アーリア」という概念は、印欧祖語の話し手と  
いう概念から、植民地科学的な人種的力ース  
ト理論の用語へ、そして反植民地主義的連帶  
における靈性の伝統に与えられた名称へ、心  
には反セム主義を生み出すドイツ民族中心  
主義的な人種概念へと、状況と時代のなかで  
その意味はさまざまに変容したことが注目さ  
れる。
- ◆ その変遷の背後では、ヨーロッパとインドの共  
有されたしかし立場によって異なる帝国経験  
のなかで、啓蒙主義とロマン主義が交錯し、そ  
してそれらの思想と政治的立場の関わりにお  
いてそれぞれのナショナリズムおよび人種主  
義が形成されていた。

# おわりに

- ◆ 人間の平等性を語るだけでは足りない。人間のあいだにはさまざまな差異があり、その尊重の必要。
- ◆ 啓蒙主義は人間の同一性にのみ注目することで、差異を生かすという方向性の思考には弱い。他方ロマン主義は自然との一体化を通じた差異の全体的統合を夢見たが、それは全体から排除される別の人種主義を生んでしまった。
- ◆ ここで必要なのは、啓蒙主義とロマン主義あるいは超越の思想と内在の思想の二つの思想的系譜のどちらかを称揚したり完全否定したりすることではなく、両者の止揚をめざすこと。
- ◆ 超越と内在、同一性と差異、一と多の関係について根本的に考え直す必要。